

「星の王子さま」より

『おとなは、だれも、はじめは子どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもいない。）』

「星の王子さま」の冒頭にこんな一文があります。この物語は、作者のアントワーヌ・ド・サン=テグジュペリが、むかし子どもだったひとりのおとな、親友のレオン・ヴェルトにささげた物語です。読んだことはなくとも、この本のタイトルを知っている人はたくさんいると思います。この物語は、児童文学という位置づけですが、その内容から「生きること」「愛すること」についてとても考えさせられる作品です。その物語の中から、私が好きな文を紹介します。

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐってから七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった・・・。

～いちばん大切なこと～

『とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない』

王子が地球で出会ったキツネの言葉です。バラとのけんかが原因で、自分の星を飛び出した王子さまでした。でも、そのバラが王子さまにとってかけがえのないバラだったことに気づくのです。目には見えなくてもそこに「絆」や「愛情」があり、王子さまがバラと過ごした「時間」があつたのです。たとえば、家族や友達、恋人など、その人たちを大切にする想いや愛情は、目には見えない。けれどもそこには確かに「絆」や「愛」があり、共有した「時間」がある。目に見えないけれど、それがとても大切なことだと、教えてくれる一言です。

7月は各学年で「人権学習」を行います。学習する内容を理解することはもちろん大切ですが、自分の心と向き合うことが何よりも大切です。「差別はいけない」「みんなが幸せに暮らせる世界に」といった第三者的な立場にとどまるのではなく、自分の心の中にある「マイナスの感情や心」に気づけることこそが、人にやさしくできる第一歩になります。身近な友だちはもちろんすべての人の人権を守ろうと行動する主体者となってください。



5日（月） 学習確認プログラム（2年）

7日（水）～人権学習（各学年）

*8日（木） タブレット端末の持ち帰り

*お子様が、各ご家庭にタブレット端末を持ちります。説明文書をお読みいただき、動作確認等、ご協力よろしくお願いいたします。

9日（金） 非行防止教室（2年）

12日（月） 保護者懇談会（三者面談）

20日（火） 1学期終業式

新型コロナウイルスの感染者数は若干減少しておりますが、気を緩めることなく、今後もしっかりととした感染症対策を講じ、教育活動を進めてまいります。各ご家庭におかれましても、引き続き、健康管理・健康観察等、よろしくお願いいいたします。また、熱中症にも注意が必要となっていました。活動前の水分摂取が大切になります。朝食時の十分な水分摂取、水筒の持参等、ご協力よろしくお願いいいたします。